

◆地区集会参加者アンケートの意見

※同様なご意見については、まとめさせていただきました。  
 ※ワークショップのテーマごとのご意見は、2~3面に掲載しました。

報告「まちづくり・Now」について

- 映像・ナレーションともとてもわかりやすい。
- BGMの音量が大きすぎた。
- 協議会の活動が簡潔にわかりやすく紹介された。
- 新たに認識したこともあった。
- まちが暮らしやすく居心地良くなるよう声を上げて行動したい。
- 電柱の地中化を細い道路から実施して欲しい。
- みどりの広場222号は、家族の利用が多く、嬉しい。子ども達の動きを見守っていききたい。

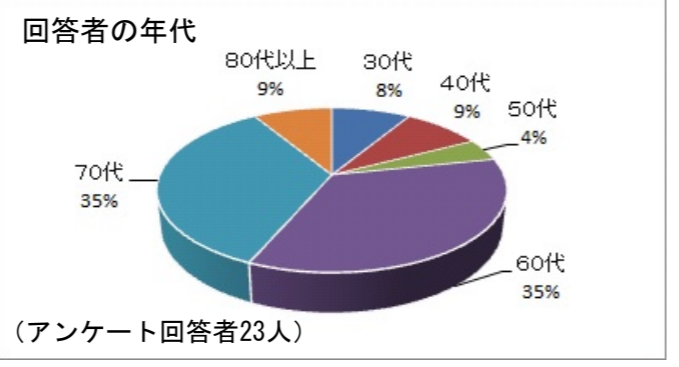


集会の進め方について

- 全員が発言することができ、色々な意見が出た。
- ワークショップは、意見を出しやすく有意義だ。
- 提案しても答えが出ないことが多かった。
- テーマごとの底が見えていなかった。
- もう少し意見を受け入れる雰囲気・聞く姿勢を参加者同士・市側にも持ってほしかった。
- 主催者や市への要望、(廃屋)所有者への依頼も突っかかっていく姿勢では頑なになるだけ。
- 時間配分を決めて協力しないと進行役が大変。
- 時間が短かった。時間の使い方の検討を。
- 初めての取り組みで足りない点もあったが、必要なことなので今後も続けてほしい。



◆地域課題を検討しています！  
 協議会では、今回の地区集会でいただいたご意見を踏まえ、他の地域課題も含め、取り扱いや解決に向けた方策について検討しています。その経過については、次回の地区集会やまちづくり通信等でお知らせしていきたいと考えています。



日頃感じている地域の課題などについて

- 高齢者が、近くで買い物ができやすい場所を。
- 廃屋問題は大事なことだ。
- 廃屋のブロック塀など修理・補修してほしい。
- 狭い道に自動車が多くハラハラする。交通渋滞。
- 観光客のマナーの悪さ。
- 海辺の景観が今ひとつ。
- 子育ての声が、他の方や市に届いていないこと。
- ファミサポのまかせて会員の研修は、日程分割やレポート提出等で敷居を低くしてほしい。
- すくのびカードについて、あまり使えていないので、他のものに変えてほしい。
- 有効活用の点から、市民の家にボランティアセンターを週1回でも開設できないか。
- 父親の休日がウィークデーになる傾向があり、子育て交流スペースを土日祝日も利用したい。
- 公民館まで遠いため、集まりに参加しにくい。
- 市民センターの喫煙所の場所を変更してほしい。



地区集会の報告で映写いたしました映像資料まちづくり・Now(まちづくり活動の様子を写真や図による説明で構成したスライドショー)につきましては、10月25日・26日の「ふれあいまつり」の展示コーナーでも放映いたします。



2014年9月21日(日)午後1時30分からスタッフ含む85人の参加のもと、片瀬・江の島まちづくり協議会(片瀬地区郷土づくり推進会議の通称。以下「協議会」といいます)の主催により、平成26年度第2回地区集会を開催しました。今回は、まちづくり活動の取り組み状況についてご報告とともに、地域課題のうち3つのテーマについてワークショップ形式による意見交換を行い、参加者全員が発言できる機会としました。

まちづくり Now!

まちづくり活動の取り組み状況

①人材・情報バンクセンター

市民センター(公民館)で火・木・金曜の10時~15時に窓口を開き、ボランティアをしたい方と地域の活動とをつなぐお手伝いをしています。9月にボランティア講演会も開催しました。

②まちかどミニベンチ設置事業

設置候補地の片瀬海岸2丁目境川沿いに設置に向けた調整をしています。

③生活道路の安全向上対策事業

小学校PTAから寄せられた通学路の安全向上要望に基づき、対応策の協議を行っています。

④緑と花いっぱい推進活動事業

弁天橋花いっぱい愛好会と子ども会が、6月に行った江の島弁天橋における花植え活動について、支援しました。今回の花の苗(マリーゴールド、ランタナ)は、県土木事務所の提供です。

⑤ボランティアセンター事業

乳幼児から高齢者までのフリースペース「ひだまり片瀬」は、モノレール湘南江の島駅前のビルで月~金曜の10時~15時に開いています。10月から市の「地域の縁側モデル事業」としても位置づけられ、益々充実しています。

⑥まちかど相談事業

子育て相談:木曜(除く第1)10~15時/臨床心理士による。  
 高齢者相談:水曜10~12時, 13~15時/地域包括支援センター, 在宅介護支援センター職員による。  
 成年後見相談:第2月曜10~15時/社会福祉士による。

⑦公民館活用事業

公民館・分館の施設を見学して問題点の抽出を行い、活用に向けた改善の提案を検討しています。

⑧青少年居場所事業

分館のフリースペースに集う青少年をサポートが見守る事業で、夏休み期間中は特に利用者が多いことから新たに水曜を増やして金曜と週2回で行いました。

⑨小学生夏休みふれあい事業

8月29~30日に分館で、夏休み☆おもしろ塾&自習室開放を行い、ゲームの要素を取り入れたチームによる勉強会などで大いに盛り上がり、子どもたち同士がふれあうことができました。

⑩青少年ボランティア活動支援事業

8月2日の「龍の口竹灯籠」事業のボランティアスタッフとして中高生が参加できるよう支援し、地域のスタッフと一緒に活躍してくれました。

⑪民俗文化財等継承事業

片瀬餅つき唄保存会の活動を支援し、8月26日に諏訪神社の特設会場で子どもたちが練習の成果を披露してくれました。片瀬こまが、伝統工芸品としてリビング湘南9月6日号の特集「まちコレ30!」で紹介されました。

⑫江の島道の整備事業

一遍上人の遺跡の整備に向けて、絵巻物看板のデザイン等について検討を進めています。

⑬地域広報事業

アクセス数が伸びつつあるポータルサイトのさらなる周知を図るため検討しています。地域情報の整理と共有・活用についても研究しています。



## ワークショップで活発な意見交換

参加したいテーマへ出席する形式とし、進行役やスタッフも含め、同じ地域に住み、生活や活動をしている住民として一緒に考え、活発な意見交換が行われました。ここでは、参加者の発言の一部をご紹介します。これらの意見を踏まえて課題の検討や集会企画の改善をしていきます。

### テーマA こんな公民館になるといいな！ ～公民館に期待すること

参加者：7人、オブザーバー1人(片瀬公民館)  
会場：ホール・ステージ 進行役：鶴見協議会副会長



- <意見の概要>
- 公民館事業への高齢者の参加促進(送迎交通手段の確保、出張公民館事業など)
  - 公民館事業の企画に立案の段階から参画したい(PTAへの声掛けなど)
  - サークルが高齢化。新生サークルを増やす策を。指導者探しに苦労(人材・情報バンクセンターの活用)。多世代の集まるサークルも必要(子どもが大人から学べる場にもなる)

- ゲーム機遊び禁止の施設が多くなる中、公民館へ子どもたちが移ってきている。大声などへクレームもあるが、安全な居場所確保の意味から、追い出しやゲーム遊び禁止などを行わないでほしい。
- 本館のフリースペースが、人材・情報バンクセンター開設後は狭くて不便。
- 公民館に期待すること
  - ・気楽に来ることのできる場所であって欲しい。
  - ・今まで来たことがない人でも行きたい場所に。

### テーマC こんな空き家・廃屋に困っています！ ～地域の廃屋対策

参加者：21人、オブザーバー1人(防犯交通安全課) 会場：第3談話室 進行役：岡田協議会委員



- <意見の概要>
- 【現状】
- 持ち主に連絡をしたいがわからない。
  - 片瀬山の空き家率は高いのではないか。
  - 2014年4月、市が空き家対策庁内検討委員会設置。
  - 空き家等対策の推進に関する特別措置法案を議員立法で提出する動き(国)
- 【空き家・廃屋の発生要因】
- 売り家が高く売れない。→廃屋に繋がる。
  - 相続問題→子どもと相続について話しているか？→生きている間に相続対策を→相続の教育も必要。
  - 空き家を取り壊し更地にすると、税金費用が増大。
- 【問題の事象】
- カーブミラーに廃屋から枝がかかり危険。
  - 地震等でブロック塀や樋が倒れて危険。
  - 空き家(廃屋)を解体しようとする時のお金の負担。
- 【管理不全となる理由】
- 高齢者が1人暮らしになると、兄弟のところに行ってしまう、住む人がいなくなり管理不全となる。
  - 子が独立して、夫婦2人となり、生活しやすいところにもう1軒家を購入し移住し、元々住んでいた家に住む人がいなくなり管理不全となる。
- 【空き家・廃屋対策への取組】
- 町内パトロールを行い、空き家・廃屋(になりそうな現場)を重点的に見ている。
  - 学生が住居で使えるよう仲介(空き家の利活用)。
  - 自治町内会の班長からの聞き取り、協力。

- 相談窓口(行政に限らず、民間など)をつくる。
  - 行政の窓口がどこにあるか明確にしてほしい。
  - 法改正(固定資産税)を行う。
  - 市は、パンフレット配布や集会を開き、空き家についての取組状況や対策を伝えて欲しい。
  - 空き家廃屋の持ち主に対する教育や空き家廃屋箇所の情報提供はできないか。
  - 空き家廃屋の予防対策を早急にしてほしい。
  - 土地没収等の罰則条例を制定してほしい。
  - 市と地域住民の協力が必要である。
  - 町内会と行政の関係・役割を明確にして取組を。
- 【その他】
- 他市の事例や取組を参考に研究してほしい。

#### アンケートからの意見

- 個別案件が多い。個々に市へ相談をしては。
- 市に総合窓口を設け、状況をまとめて対策を。
- 空き家の苦情をしっかりと受けてほしい。
- 法律を改正して、強制的に解体を。
- 市の調べが足りない。
- 資料が足りない。時間が足りない。
- 委員会を作って進めるべき。
- PDCAをしっかりとしていきたい。
- 廃屋撲滅作戦をやってほしい。
- 不動産会社等のプロを入れてはどうか。

<意見の概要>

- 【にこにこ広場について】
- 出産してから存在を知り、ありがたく利用している。
  - 一人で慣れない育児への不安が軽減した。
  - スペースを少し広くし、他の場所にも作ってほしい。
  - 上の子の幼稚園のお迎えに困ったが、利用者同士の助け合いで乗り切った。
  - 情報収集と発信の充実を。
- 【行政サービスについて】
- 都内に比べ、サービスが不十分な点も。
  - 出産後のサポートの充実を。
  - 小さい子ども遊ぶので、公園の犬のフンが気になる。
  - 乳幼児の親にもマッサージ券を。
- 【ファミリーサポート制度について】
- サポートしたいが、片瀬ではあまり普及していない。
  - 預けたいが、片瀬は会員が少なくできなかった。
  - 身近で顔がわかる方をお願いできると安心。
  - 子どもが悪戯などで迷惑をかけるかと心配し、預けられなかった。
  - サポーター登録の機会が少ない。各市民センターで研修の開催を。
  - 研修は短時間に。受講時の保育等、受けやすく。
  - 700円/時は高い。もう少し安く。
  - にこにこ広場とファミサポのリンクを。

### ①子育てのグループ

参加者：13人、オブザーバー4人(市民自治推進課、子ども青少年育成課、子ども青少年部長、市社会福祉協議会) 会場：第1談話室 進行役：正田ボランティアセンター運営委員会副会長



- 【その他】
- ボランティアしおさいはチケット制で高齢者向けの活動だが、子育て支援にも視点を向けていけたら。
  - 公園で父親の姿を見ない。どうしているのだろう。
  - 母親は一人になるときがない。子育ては一人でするものではない。
  - 高齢出産同士の集まりがあるといい。
  - ちょっとした集まりがママ友のきっかけに。
  - 保健所の栄養指導は第一子しか受けられない。
  - 母親は比較的時間はあるが活躍できる場がない。
  - 子どもを傍に置いて、役に立てる活動ができれば。
- アンケートからの意見**
- もう少し意見交換の時間がほしかった。

### テーマB こんな交流スペースがあるといいな！ ～片瀬地区ボランティアセンターの充実に向けて

### ②おとなのグループ

参加者：28人、オブザーバー2人(市民自治推進課、市社会福祉協議会) 会場：第2談話室 進行役：杉山協議会副会長



- <意見の概要>
- 【利用の促進について】
- 高齢者が入りづらい。月1回でも「大人の日」を設けて盛り上げを。
  - 空き店舗等を利用して、靴を脱がずに気軽に入れる縁側のような場所があるといい。
  - 講座以外にも囲碁将棋等何か企画を。
  - 市民の家等へ出張し、ミニ講座などを企画しては。
  - 車いすや認知症の方も気楽に一緒に交流を。
  - 移動が大変で利用しない。バス等手段の検討を。
  - 知り合いができない人は足が遠のいていく。
- 【認知度について】
- しおさいセンターがあるからという声を聞く。
  - この場を知らない人がまだ多い。
  - 「お茶が飲めます」「トイレが使えます」とPRを。
  - お金もかからず利用できる交流の場は不可欠。今まで地域との関わりがない人にも勧めている。
- 【従事者としての参加について】
- 高齢者から意見を聞き、魅力ある企画を考えたい。
  - 従事して、自分が癒され元気をもらっている。
  - 従事者としてこれからも協力していきたい。
  - なかなか外出しない高齢者に、ボラセンのお手伝いをやってほしい。「従事者」「利用者」のくくりではなく、集う人が交流でき、話ができる場になるといい。

#### アンケートからの意見

- 交通問題や地域的な問題など様々な意見が出て、時間いっぱい話し合われた。
- 日頃思っている事項を話すことができた。
- おとなの居場所を充実させ、広げたい。
- 子育て中にボラセンを利用した方が、今度はボランティアとして参加していただき、地域のことを考える若い世代のボランティアが増えると良い。
- ボランティアセンターの新設も良いが、予算上からも市民の家を有効活用した方が良い。